

「恐れず、信じなさい」

(マルコの福音書 5 章 21 節～ 43 節)

「イエスは、その話のことばをそばで聞いて、会堂管理者に言われた。『恐れなさい、ただ信じていなさい。』」(5:36)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○今日の聖書箇所には2つの癒し物語が記されています。1つ目は、病気の女性が癒されるお話です。彼女が12年間も病気のために苦しみ、その治療のために多くの財産を失ったのはとても気の毒です。しかしもっと気の毒なのは、当時の社会が彼女の病いに対して宗教的なけがれというレッテルをはり、人間的なふれあいを禁じ、彼女が安住できる場所を奪い取っていたことです。治らない病気を抱えた人が治ることでしか社会に認められず、必要な心のケアも受けられなかった。そこに彼女の12年間の悲しみ、苦しみがありました。彼女が飢えていたのは人々の愛です。イエス様に伸ばした彼女の指先には、そんな彼女の必死の祈りがこもっていたのではないのでしょうか。イエス様は、彼女の病いを癒されたばかりか、「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と、居場所がなかった彼女に平安をも与えてくださったのです。

○2つ目は、会堂管理者ヤイロの娘が癒される（復活させられる）お話です。娘の癒しを求めてイエス様に会いに来たヤイロは、その途上で娘が死んだという知らせを受けた時、どんなに大きな衝撃を受けたことでしょうか。足元が崩れる思いだったと思われます。「なぜ危篤の娘のそばを離れたのか」と、彼を責める人もいたかもしれません。「あの時、ああすればよかった。こうしたらよかった」とか色々言えるでしょうが、ヤイロは父親として今自分にできる最善はこれだ、と決断してイエス様を頼ったのです。そこまでして自分を頼ってきたヤイロを「何があっても恐れるな。私を、ただ信じ続けなさい」というイエス様の御言葉が支えます。そしてイエス様はヤイロの家を目指して歩まれ、彼の家に入って行かれます。

○39節に「(家の) 中に入って」とあり、40節に「泣き騒ぐみんなを外に出した」とあります。「内」と「外」が区別されています。葬儀のための泣き女たちが群がり、イエス様が「なぜ泣き騒ぐのか。子どもは死んだのではない。眠っているのだ」と言われると、一斉にあざ笑います。それが外なる世界です。しかし、家に入ることを許されたヤイロたちは、イエス様の内なる世界、信仰の世界を見るのです。そこで彼は、自分の娘がよみがえらされる奇跡を目撃します。これは、実際に起こったこととも言えますし、あるいは終末の時に引き起こされる「からだのよみがえり」の先取りとも言えます。さらに言えば、終末まで待たなくても、私たちはイエス様によって、あの病を癒された婦人やこの少女と同様、日々新しくよみがえらされているのではないのでしょうか。イエス様は「少女に食べ物を与えなさい」と言われました。復活という非日常的なことを、食事という最も日常적인ことによって維持しなさい、と言われるのです。このお言葉通り、キリストによって日々与えられる新しい命を感謝し、日々の生活において賛美して歩んでいこうではありませんか。